

知床国立公園利用適正化検討会議について

1. 設置目的

知床国立公園の望ましい保護と利用のあり方について平成13年度に策定された知床国立公園適正利用基本構想に基づき、知床国立公園の適切な保護と利用の推進を図るため、学識経験者、関係団体及び関係行政機関により構成する利用適正化検討会議を設置。

2. 検討事項

- (1) 利用適正化基本計画に関する事項
- (2) 利用適正化基本計画の具体化に関する事項
- (3) 利用ルールに関する事項
- (4) その他目的達成のために必要な事項

3. 構成

検討委員、地域関係団体、関係行政機関

- ・検討委員（五十音順、敬称略）

小川 巖（エコネットワーク代表）

小林 昭裕（専修大学北海道短期大学教授）

新庄 久志（釧路市環境政策課湿地保全主幹）

辻井 達一（財団法人北海道環境財団理事長） ※座長

中川 元（斜里町立知床博物館長）

中易 紘一（財団法人北海道林業会館 理事長）

4. 平成19年度までの検討状況

平成16年12月	「知床半島先端部地区利用適正化基本計画」策定
平成17年9月	「知床半島中央部地区利用適正化基本計画」策定
平成20年1月	「知床半島先端部地区利用の心得」の決定

5. 平成20年度の検討状況

平成20年7月22日（平成20年度第1回検討会議）

「知床半島中央部地区利用の心得」の決定

平成20年度知床半島中央部地区利用適正化実施計画関連事項の報告

羅臼岳登山者における携帯トイレ利用促進について

知床国立公園マイカー規制に係る利用者動態予測について

知床国立公園知床半島中央部地区利用の心得
(中央部地区の利用に当たっての留意事項、禁止事項)

[3つの柱]

1. 自然環境への配慮
2. ヒグマに対する注意
3. 地域の生活・文化への配慮

[10の約束]

1. 野生動物に食べ物を与えない
自然の生態系を乱すだけでなく、人に近寄るヒグマを創り出したり、キツネの交通事故を誘発するなど、人と野生動物の双方に不幸な結果をもたらします。
2. 道を外れて歩かない
歩道や木道から外れて歩き回ると道に迷うなど危険なだけでなく、植物が踏み荒らされたり、土が削られたりします。
3. 動植物をとらない、脅かさない、傷つけない、持ち込まない
繊細な自然は、小さな行為でも大きな影響を受けます。
4. ゴミは持ち帰る
景観や野生動物に影響を及ぼし、ヒグマを誘引するおそれもあります。
5. ペットを外に連れて歩かない
ヒグマを刺激してしまうおそれがあります。
6. 遊歩道上での食べ歩きや野外での調理は行わない
食べこぼしや食べ物のにおいはヒグマやキツネなどを引き寄せる原因になります。
7. ヒグマに出会わないようにする
ヒグマに対する私たちの行動次第で、危険な状況になることがあります。出会わないようにすることが一番の安全対策です。
8. ヒグマに近づかない、刺激しない
自分が危険なだけでなく、人の接近に慣れすぎたヒグマはトラブルを起こすようになってしまう場合があります。
9. 車のスピードは控えめに
野生動物が飛び出してきました。大きな事故にもつながります。
10. 漁業活動を妨げない
地域の人々の生活を支えています。

『登山利用 5つの約束』 (知床連山の登山道利用者を対象に)

1. 事前の計画と準備を万全に
安全対策や事故防止に関する計画・装備等を十分に検討しましょう。
2. ヒグマ対策を万全に
知床のヒグマは、人やテントを避けることなく自由に行動しています。他の地域のクマとは異なる心がまえと対応が必要です。あらかじめ最新の情報を入手し、特に野営地(キャンプ地)での食料やゴミの管理には十分に配慮しましょう。
3. 植生等の保護に配慮した行動を
登山や野営(キャンプ)によって繊細な高山植物に悪影響を与えないよう、行動に十分な配慮をしましょう。
4. 尿尿やゴミの処理を適切に
携帯トイレの使用に心がけ、ゴミは全て持ち帰り、きれいな環境を保持しましょう。
5. 火の扱いに注意する
自然環境への悪影響や山火事のおそれがあるため、火の取扱いには十分注意しましょう。